



平成19年 3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成 18年 7月 28日

上場会社名 ユニ・チャーム株式会社

(コード番号 : 8113 東証第1部)

(URL <http://www.unicharm.co.jp/>)

代表者 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久

問合せ先責任者 執行役員 経理部長 岩田 淳 TEL (03) 3447 - 5111

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 (詳細は添付資料に記載)

2. 平成19年3月期第1四半期財務・業績の概況 (平成18年4月1日 ~ 平成18年6月30日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注)金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第1四半期	69,490	11.7	5,235	3.1	5,162	8.5	2,721	1.1
18年3月期第1四半期	62,201	3.2	5,402	33.1	5,642	31.2	2,692	34.6
(参考) 18年3月期	270,380		28,531		28,781		15,287	

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19年3月期第1四半期	41	63	41	48
18年3月期第1四半期	40	50	40	15
(参考) 18年3月期	229	34	229	00

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

(2) 財政状態 (連結) の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	249,332	166,756	61.0	2,328 07
18年3月期第1四半期	219,462	140,439	64.0	2,112 67
(参考) 18年3月期	250,355	151,182	60.4	2,309 59

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	3,525	2,470	2,329	66,372
18年3月期第1四半期	7,779	7,342	412	56,848
(参考) 18年3月期	36,888	20,251	6,217	67,649

[参考]

平成19年3月期の連結業績予想 (平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	140,000	12,400	6,300
通期	295,000	30,000	16,000

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 244 円 76銭

上記の予想には、本資料の発表現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期（平成18年4月1日から平成18年6月30日まで）の国内事業は、リーディングカンパニーとして価格から価値へ競争軸の転換を図るため、パーソナルケアおよびペットケアの両事業で新需要創造型製品や高付加価値製品を発売し、市場の活性化による収益向上に取り組んでまいりました。また海外事業では、市場の成長が著しい中国をはじめタイ、インドネシアなどのアセアン諸国に加え、韓国・中東地域において順調に業容を拡大し、海外売上高は前年同期より73億円（前年同期比46.6%増）の大幅な増収を達成いたしました。この結果、連結売上高は前年同期より72億円増加して694億円（前年同期比11.7%増）となりました。連結営業利益は原材料価格上昇などの影響を受け、前年同期より1億円減少して52億円（前年同期比3.1%減）、連結経常利益は4億円減少して51億円（前年同期比8.5%減）、連結純利益は29百万円増加して27億円（前年同期比1.1%増）となりました。

セグメント別の概況

1. パーソナルケア事業

ベビーケア事業

当社はベビー用紙オムツのリーディングカンパニーとして、市場の再活性化と収益の向上を図るため、高付加価値パンツ型紙オムツ『ムーニーマン』より、新たに『ムーニーマン汗スッキリ』を夏期限定で発売しました。夏場に高まる消費者の肌ケアニーズに適した製品を投入することによって、プレミアム化を推進し収益性の改善を図りました。

一方、海外では、中国においてプレミアムタイプ『Mamy Poko』の積極的な販売・マーケティング活動を展開し、順調に売上を拡大しました。台湾・タイ・インドネシアなどの他のアジア地域参入各国においても順調に売上を拡大しました。5月には韓国においても『Mamy Poko Pants』を発売し、韓国ベビー用紙オムツ市場に本格的な参入を果たしました。また、昨年、サウジアラビアの企業を子会社化した中東地域においても、積極的に販売を強化しベビー用紙オムツの売上を拡大しました。

フェミニンケア事業

国内では、生理対象人口の微減が続く中、高付加価値の製品を積極的に提案することによって、市場の活性化を図りました。

生理用ナプキンでは、『ソフィボディフィットふわピタスリム』から夜用タイプの「特に多い日の夜用」を発売しました。さらに、『ソフィ』から「超熟睡ガード400」を発売し、高付加価値成長セグメントの育成とシェアの拡大に取り組んでまいりました。

また、資生堂グループから生理用品事業を取得し、本年6月より『センターイン』ブランドの製造・販売を開始しました。センスやデザインなどおしゃれ重視の消費者に対して、情緒的なイメージの高い『センターイン』ブランド製品の販売を強化することによって、更なる売上と利益の拡大を図りました。

一方、タンポンでは全てのタイプを刷新したことに加え、これから需要期を迎える夏場に向け、当社ホームページ内にある生理用タンポンの情報サイトを大幅リニューアルし、新生『チャーム』サイトをオープンしました。また、元水泳選手でオリンピック銅メダリ

ストの田中雅美さんを『チャーム』タンポンのCMキャラクターに起用し、10年ぶりとなる新TVコマーシャルの放映を開始し、タンポンの普及促進を図りました。

海外では、東アジア及びアセアン諸国における展開を加速するために、高付加価値の夜用タイプナプキンを中心に積極的な販売・マーケティング活動を行い、市場拡大の加速化と『Sofy』ブランドの市場浸透を図りました。ライナーでは、2枚重ねタイプの『Sofy Double Fresh』の差別化された製品力を活かして販売を強化しました。また、韓国においては、夜用タイプの新製品の投入と、TVコマーシャル展開によって売上を拡大しました。

ヘルスケア事業

国内では、高齢化の進行を背景に、シニア軽失禁市場は年率20%と高い成長を見せています。今後は、「2007年問題」に象徴されるように団塊の世代の高齢化が進み、ますます軽失禁市場は拡大すると予測されます。そこで、失禁ケア用品のトップメーカーとして、切迫性尿失禁に特有の症状に適した『ライフリー その瞬間も安心』を新発売しました。また、高成長を維持するために、介護される人の症状に最適な製品を的確に選択できる「新ケアナビゲーションシステム」の店頭展開や、豊富な排泄ケアノウハウに基づいた排泄ケアのための情報発信を通じて介護品質の向上を促進してまいりました。

業務用分野においては、独自の排泄ケアモデルの提案によって新規顧客の獲得に注力してまいりました。さらにダイレクト販売「いきいき生活」事業では、インターネットを活用した顧客接点の拡大により、新規顧客と売上の獲得を推進してまいりました。

海外においては、台湾とタイにおいて『Lifree』ブランドの展開を加速し、着実な成長を遂げてまいりました。また、ヨーロッパを中心としたパンツタイプ紙オムツも順調に売上を伸ばしました。

クリーン&フレッシュ事業

当社がこれまで培ってまいりました不織布・吸収体技術を応用した製品を通じて、お客様へ清潔・安心・新鮮を提供するクリーン&フレッシュ事業では、新たなお掃除習慣を提案するシートクリーナー『ウェーブ』ブランドに集中して販売を強化し、市場の拡大を図ってまいりました。また、『シルコットウェットティッシュ』ブランドからは、お子さまにも安心してやさしく除菌ができるボトルタイプのウェットティッシュ、『シルコットウェットティッシュ ハンディウェット安心除菌』を、春の行楽シーズンに先駆けて発売しました。

海外では、当社がシートクリーナー『ウェーブ』のシート技術をライセンス供与し、ザ・プロクター・アンド・ギャンブル社が、北米ならびにヨーロッパ地域において販売する「スイッファードスターズ(Swiffer Dusters)」の売上は当期も好調に推移し、当社のロイヤリティ収入の増加に寄与しました。

2. ペットケア事業

国内の少子化・高齢化が一段と進行してゆくなか、ペットに対する関心は益々増大し、ペットケア市場に対する期待は非常に大きなものとなっております。

当事業部門では、「健康と清潔でペットの暮らし快適に」の理念の下、ペットが元気で長生きし、清潔な環境で暮らしてゆくための、ペットフード、ペットトイレタリーに特化して、事業展開を図ってまいりました。

ペットフード部門では、ペットの健康のために、きめ細かい栄養バランスを追求し、さらにおいしさにもこだわった製品を提供しております。猫用フード市場で圧倒的なご好評をいただいております『ねこ元気 銀のスプーン』シリーズとして、より高い嗜好性を実現した『ねこ元気 銀のスプーン 海のグルメ』の発売によるラインアップ強化などにより、販売促進に努めてまいりました。

ペットトイレタリー部門では、ペットが清潔で快適に暮らせるために、主に室内排泄処理に特化した製品を提供しております。猫用製品として、消臭に特化した『オシッコのあとに消臭する砂』、犬用製品として、小型犬の犬種による体格の違いにより細かく対応して「漏れない・汚れない」ニーズを追求した『デオシート セミワイド』の発売などにより、さらなる売上拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上・利益とも順調に伸張し、増収増益を継続いたしました。

3. その他事業

不織布・吸収体の技術を活かした業務用製品分野においては、スーパーマーケット等を顧客とする食品包材事業を中心に、業務用食品包材である『フレッシュマスター』のスーパーマーケットへの浸透強化と、飲食店ルートへの販売を強化しました。

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

総資産は前期末に比べ 10 億円減少して、2,493 億円となりました。また、純資産は、155 億円増加(当第 1 四半期より少数株主持分 145 億円を純資産に含めております。)して 1,667 億円となりました。この結果、自己資本比率は、前期末の 60.4%から 61.0%に上昇しました。

増減の主なものは、流動資産では現金及び預金と受取手形及び売掛金が合計で 30 億円減少し、有価証券が 16 億円減少しております。有形固定資産では、建物及び構築物と機械装置及び運搬具が合計で 5 億円増加し、建設仮勘定が 11 億円増加しております。

当第 1 四半期において、営業活動によるキャッシュ・フローは、35 億円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益 50 億円、減価償却費 30 億円や流動資産・流動負債の増減等によるキャッシュの増加 20 億円、法人税等の支払 63 億円等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、24 億円の支出となりました。固定資産の取得による支出が 46 億円、有価証券等の売買による収入が 25 億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、23 億円の支出となりました。短期借入金の減少による支出が 13 億円、配当金の支払が 8 億円となっております。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第 1 四半期末残高は、前期末より 12 億円減少して 663 億円となりました。

[業績予想に関する定性的情報等]

中間期、通期ともに、当初予想（平成 18 年 4 月 28 日公表）と変更ありません。

(添付資料)

(要約) 四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

期 区分	当第1四半期末 (平成18年6月30日現在)		前第1四半期末 (平成17年6月30日現在)		前連結会計年度末 (平成18年3月31日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
(資産の部)		%		%		%
流動資産	133,638	53.6	108,380	49.4	134,983	53.9
固定資産	115,693	46.4	111,082	50.6	115,371	46.1
1.有形固定資産	78,958	31.7	72,297	32.9	77,110	30.8
2.無形固定資産	4,307	1.7	2,195	1.0	4,265	1.7
3.投資その他の資産	32,428	13.0	36,588	16.7	33,994	13.6
資産合計	249,332	100.0	219,462	100.0	250,355	100.0
(負債の部)						
流動負債	70,236	28.2	60,228	27.4	72,645	29.0
固定負債	12,339	4.9	9,129	4.2	12,223	4.9
負債合計	82,576	33.1	69,358	31.6	84,868	33.9
少数株主持分	-	-	9,665	4.4	14,304	5.7
(資本の部)						
資本合計	-	-	140,439	64.0	151,182	60.4
負債、少数株主持分及び資本合計	-	-	219,462	100.0	250,355	100.0
(純資産の部)						
株主資本	147,111	59.0	-	-	-	-
評価・換算差額等	5,074	2.0	-	-	-	-
少数株主持分	14,570	5.9	-	-	-	-
純資産合計	166,756	66.9	-	-	-	-
負債及び純資産合計	249,332	100.0	-	-	-	-

(要約) 四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

期 区分	当第1四半期 〔自平成18年4月1日 至平成18年6月30日〕		前第1四半期 〔自平成17年4月1日 至平成17年6月30日〕		前連結会計年度 〔自平成17年4月1日 至平成18年3月31日〕	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	69,490	100.0	62,201	100.0	270,380	100.0
売上原価	40,288	58.0	35,642	57.3	153,264	56.7
売上総利益	29,202	42.0	26,558	42.7	117,116	43.3
販売費及び一般管理費	23,966	34.5	21,156	34.0	88,584	32.7
営業利益	5,235	7.5	5,402	8.7	28,531	10.6
営業外収益	401	0.6	501	0.8	1,746	0.6
営業外費用	474	0.7	261	0.4	1,496	0.6
経常利益	5,162	7.4	5,642	9.1	28,781	10.6
特別利益	5	0.0	79	0.1	1,504	0.6
特別損失	135	0.2	115	0.2	1,719	0.6
税金等調整前 四半期(当期)純利益	5,032	7.2	5,605	9.0	28,566	10.6
法人税等	1,924	2.8	2,439	3.9	11,465	4.2
少数株主利益	386	0.5	474	0.8	1,813	0.7
四半期(当期)純利益	2,721	3.9	2,692	4.3	15,287	5.7

(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

区分	期	当第1四半期	前第1四半期	前連結会計年度
		(自 平成18年 4月 1日) (至 平成18年 6月30日)	(自 平成17年 4月 1日) (至 平成17年 6月30日)	(自 平成17年4月 1日) (至 平成18年3月31日)
		金額	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,525	7,779	36,888
投資活動によるキャッシュ・フロー		2,470	7,342	20,251
財務活動によるキャッシュ・フロー		2,329	412	6,217
現金及び現金同等物に係る換算差額		0	93	499
現金及び現金同等物の増減額(減少:)		1,276	117	10,918
現金及び現金同等物の期首残高		67,649	56,359	56,359
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額(減少:)		-	371	371
現金及び現金同等物の期末残高		66,372	56,848	67,649

四半期財務情報の作成等に係る事項**連結の適用範囲の異動**

連結(新規) 1社 (除外) -社 持分法(新規) -社 (除外) -社

(株)ミュウプロダクツは連結子会社ユニ・チャームプロダクツ(株)が株式の取得を行ったため、当第1四半期より連結子会社となりました。